

算数マジック「サークル・カード」

青森・野呂茂樹

このマジックは、古典マジック(名称不明)を基にしてつくりましたが、しかけは環状に並べたカードの特徴を利用していますので、サークル・カードとしました。謎解きが楽しめるマジックです。

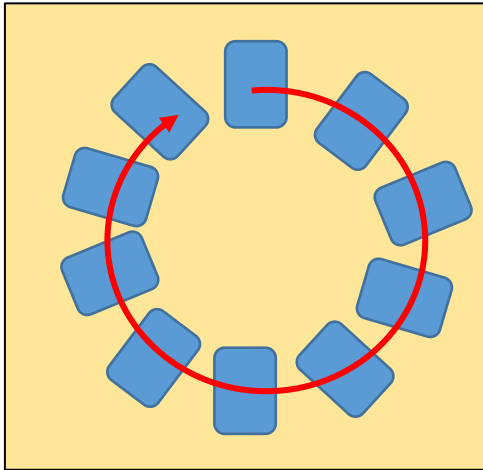
【基本の現象1】

① 5種のカードの並び順が同じな組、2組(計10枚)を重ねます。

例:「2-5-1-3-4」、「2-5-1-3-4」とか、「いぬ-ねこ-ねずみ-たぬき-きつね」、「いぬ-ねこ-ねずみ-たぬき-きつね」とか。

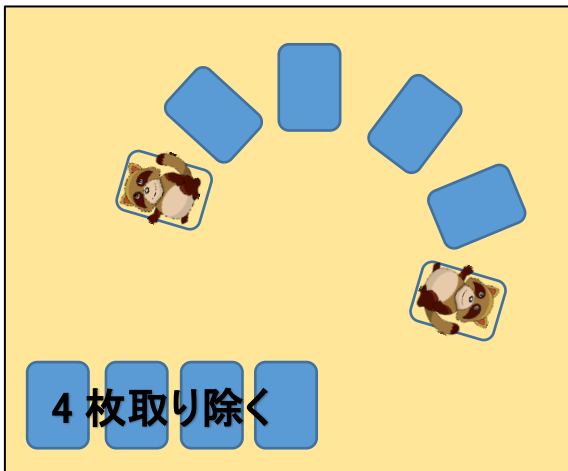
② 数回カットします(任意の位置で2つに分け、上下を入れ替えます)。

③ 上から順に1枚ずつサークル状に並べます。



④ 「任意の連続する4枚を取り除いてください」

⑤ 「残りの両端のカードを開いてください」



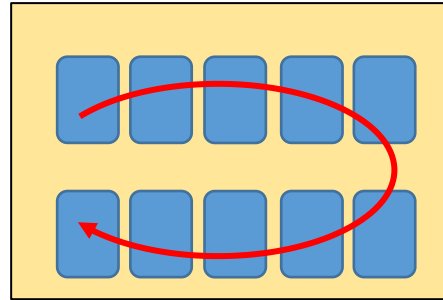
“一致しているはずですが”
「しかけを考えましょう」

【基本の現象2】

① 【基本の現象1】の①

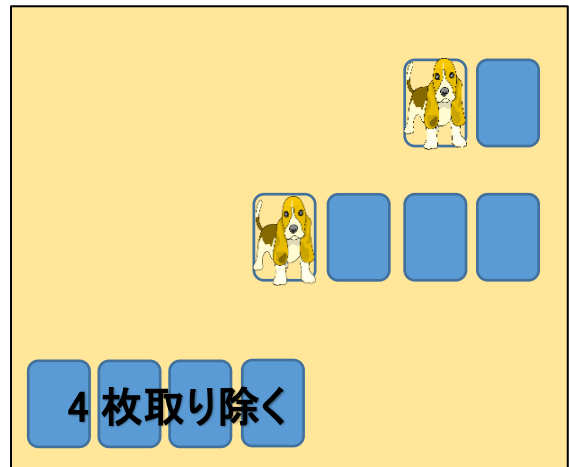
② 【基本の現象1】の②

③ 上から1枚ずつ図の順序で、2段に並べます。



④ 「左側から、計4枚を取り除いてください。一方の段から4枚でも、一方から3枚・他方から1枚でも、両段から2枚ずつでもかまいません。」

⑤ 「残りの両端のカードを開いてください」



“一致しているはずですが”
「しかけを考えましょう」

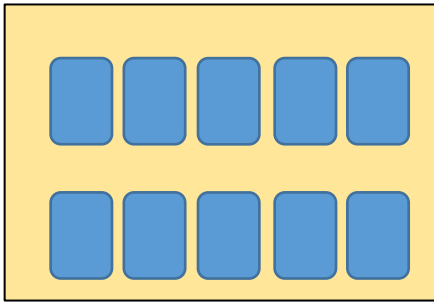
* ここまで読んだ方は、【基本の現象1、2】とも、同じ操作をしていることに気づいたと思います。しかし、マジックのときは、手順①を説明しないで行うので、見ている人にはとてもふしぎです。「全部同じカードでは」との声もです。

なお、手順②のカットを行うと、よく混ぜたような錯覚をします。何回カットしても隣り合うカードは変わることはありません。全体の並び順は変わっていません。

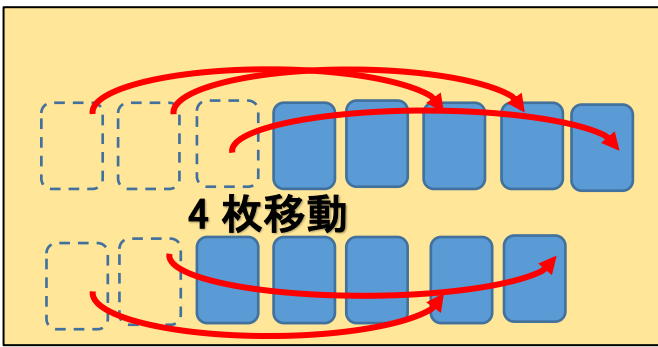
また、ここでは(5種×2組)枚のカードを使用していますが、何種でもできます。

【マジック】

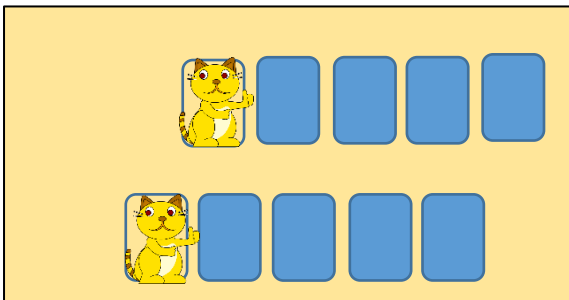
- ① 【基本の現象2】の①
- ② 【基本の現象2】の②
- ③ 【基本の現象2】の③



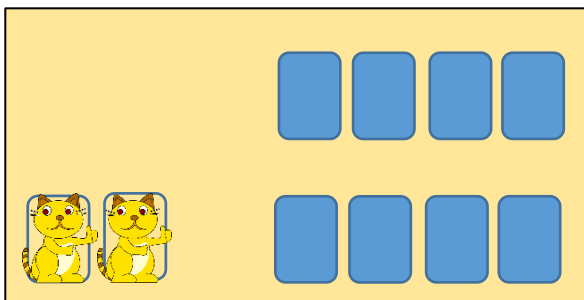
- ④「左側から、1枚ずつ計4枚をそれぞれの段の右端に移動させてください。一方の段から4枚でも、一方から3枚・他方から1枚でも、両段から2枚ずつでもかまいませんが、必ず1枚ずつ移動させください」



- ⑤「左端のカードを開いてください」



- ⑥「開いた2枚を寄せて、残り計8枚で行います」



- ⑦「左端から、1枚ずつ計3枚をそれぞれの段の右端に移動させてください。一方の段から4枚でも、一方から3枚・他方から1枚でも、両段から2枚ずつでもかまいませんが、必ず1枚ずつ移動させください」



- ⑧「残りの6枚で同じように行います。移動する枚数は2枚です」



- ⑨「残りの4枚で行います。移動する枚数は1枚です」



*動画

<https://youtu.be/rnxuHiXJ1Og>